

令和6年度管理業務主任者試験講評 & 予想合格ライン

(本試験所感)

問題全体の難易度は、昨年度より易しいと思われる。個数問題は4問減り11問、組合せ問題は1問減り6問となり、解答を出しやすい問題が多かった。問題配列に変更があったが、出題論点が定着している「賃貸住宅管理業法」「宅建業法」「統計」などが中心に出題された。今年度も、いかに過去問題の論点を把握し、同様論点の繰り返し問題から1点でも正解につなげ、得点を伸ばせたかが、合否を分ける要因となったのではないかと。

(民法・区分)

今年、民法からは3問出題され、昨年より1問減少した。内容的にはいずれも基本事項を問う問題だった。区分所有法は、5問出題され、うち1問は、最高裁判例の内容を各肢で問うものだった。民法・区分所有法全体としての難易度は、昨年並みであったといえるであろう。昨年は出題されなかった建替え等円滑化法が今年に出題された。

(規約・会計)

標準管理規約は、基本的知識があれば解ける問題が多かったが、個数問題が出題の半分以上を占めており、基本的知識の精度が重要であった。標準管理委託契約書は、前年度より出題数が増えて5問出題され、個数・組合せ問題も含まれていた。宅建業法・不動産登記法は、基本的な出題であった。他方で、品確法・消費者契約法からの出題はなかった。

会計は、4年連続で貸借対照表1問、仕訳2問の形式である。さらに税務から1問出題された。いずれも、過去問を理解していれば正解できる問題である。

(維持・保全)

設備や建築法令は昨年につづき過去問で解けるものが多かった。ただ、いつもと異なる問われ方をされたので苦戦した人もいたと思われる。また、長期修繕計画作成ガイドラインは昨年と同様4問出題された。個数問題が2問、穴埋め問題が1問出題されたので正確な知識が必要であった。マンションの劣化現象や診断・補修方法について、今度も出題が予想されるので注意したい。

(適正化法・基本方針)

昨年度と比べ、個数問題はなく、組合せ問題は昨年同様1問出題された。しかし、難しい通達論点はなく、正確な知識さえあれば、比較的解答を出しやすかったと思われる。

TACが予想する合格ラインは、 **38点±1** と思われます。(12/10 発表)

※当合格ラインはTAC独自の予想であり、合格ラインを保証するものではありません。また、情報を更新する場合もございます。

※この解答速報の著作権はTAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC 管理業務主任者講座